

## 論攷第50巻発刊にあたって

論攷も巻を重ね、本年第50巻を発刊することとなった。ここで本誌50年のあゆみを振り返ってみたい。

1954（昭和29）年に神戸女子短期大学学会が発足し、論攷はその機関誌としてこの年の1月に創刊された。「論攷」とは、「論考」の別字で「論じ考察を加えること」とのことである。単に大学紀要や大学論文集というタイトルの雑誌が多い中、実に当を得たタイトルである。また素晴らしい隸書による「論攷」の文字は神戸女子短期大学の誇りでもある。このタイトルおよび書は、開学当時国文学を担当しておられた谷口幹治先生によるものではとのことである。

昭和29年発行の第1巻は5分冊（1－5号）第2巻の2分冊は昭和30－31年にかけて発刊されているが、その後はほぼ1年1巻のペースで出版され、1960（昭和35）年の第5巻からは理科編と文化編の2分冊に分けて発行されている。

1969（昭和44）年の第14巻2分冊目は通し号数で第34号であるが、翌年の35号からは巻を号に改め、第15号としている。その後第19号までは1号それぞれに理科編と文化編の2分冊が発行されている。1981（昭和56）年以降は巻に統一され、第29巻、30巻以外の一つの巻の中に理科編と文化編が編纂されている。

1991（平成3）年に学園創立50周年記念号として第36巻が発刊され、この巻からB5判サイズとなり今日に至っているが、この50年間、1～49巻の中に計573編の論文等が発表されている。

創刊の辞に故行吉哉女先生が述べておられるように、論攷が「益々本学の学的水準を高からしかめる礎石」となることを願って、第50巻発刊の言葉といたします。

2004年11月

神戸女子短期大学  
学長 森本 武利